

劇団さんごう 2012年度作品

贗作・不思議の国のアリス

松本大志郎

うさぎ

(せわしく駆け回る) タッタカタッタカタッタカタッタカ。カタカタカカタカ。タッタカタッタカ何が固かったー？頭が固かったー。体も硬かったー。一旦、中断。柔軟体操。オイッチニーサンシー。ニーニサンシー。サンニーサンシツ。イラッシャイマセツ！セカセカセカセカ顔を貸せ金を貸せ手枷足枷みんな貸せー。

(客の目線に気づいて) あー。どうも、こんにちは、こんばんは、おはようございます？今何時ですか？今何時ですか？何時何分何秒ですか？何時何分何びよ・・・あー、そうかそうかそうか、(首から下げてる時計を見て) これがあった、これがあった。えーつと(いろんな角度から見ても) あー、こりやいけない、こりやいけない、てやんでいてやんでい。遅れちゃう、叱られる。ビビデバビデブー。(走り出す)

その他のキャスト、それぞれにPCキーボードやタブレット、携帯などを持って出てくる

インターネットの世界に没頭している様子

うさぎ

(走る) 逃げ急げって言われてんですよ。

アリス

なまぬしおっ
生主乙

男1

わらわらわらわら
w w w w w

うさぎ

(走る) 連れて来い連れて来いって言われてんですよ。

女1

ダメポ

男2

サーバーメンテとかオワコン！

うさぎ

(走る) 行ったり来たり行ったり来たりで、どこがどこやら

女2

自演乙w 晒せ

アリス
釣れた釣れた

男1
やべ！ポンポンペイン！

うさぎ
（走る）走るのが仕事ですけど、仕事ですけどねー。走りますよねー。

女2
（携帯取り出し）はい？何。何言ってるの。忙しいの。馬鹿言うんじゃないわよ。え？それくらい自分で……。はいはい、わかったわよ。だけどね、いい？あなた自分の立場つてものを考えてみ……。切れた。

男2
マジパネツ。

うさぎ
（走る）もうどこが境目なのよ境目さん。イビツでイビツだイビツさん（ハケ）

アリス
（携帯電話取り出し）お茶……。だから、お茶。もうないの……。お茶……。お茶。……。お茶。……。お茶。

女1
マジうぜー。メンヘラじゃねーの。ブロックされるわけだわ。

男1
あ、メール。（携帯の画面見て）リアルとか自信ないなー。詐欺写だし。

女2
チョッ。サポとかなくね？

男2
マジ、トンだなう！

女1
アゲぽよー

アリス、PCの電源を落としヘッドホンを外す
周りを見回すアリス。誰もいない部屋。
懐から写真を取り出し眺める。その顔は無表情。仕舞う。
居心地が悪い。いろいろな格好を試す。座り方を変えたり、寝
転んでみたり etc... 何にしても居心地が悪い。
再びPCの電源を立ち上げる。

アリス

マジ、フアーローツ〇 かまってちゃん全開だね。クソワロタ。そんなだから、干されんだろ。www。乙乙、みんな乙、リムーブしまーす。いろんな意味でリムーブしますよー。www。誰がネット弁慶だつて？オメーじゃねーの？アタシ牛若丸うー成敗してやるwww。え？あとで仲間になるんじゃないんって？なるかってーの。一人で干からびときな。

p cの電源を再び落とすアリス

静寂があたりを包む

依然として、居心地悪い

うさぎ駆け込んでくる

うさぎ

はしゃーっ、着いた着いた。着いたよやっ到着いた。走ったねー走った。やっと思つたアリス。

アリス

(驚くアリス)

うさぎ

じゃー行きましょーね。はいはい。行きましょ。 (アリスの腕をとる)

アリス

(拒否。おびえる)

うさぎ

(勢い余って転びそうになる) おーとつと。駄目だよダメダメ。急がな くちやいけないんだ急がな くちや。拒否権はなしなし。四の五の言わずに、さあ立った立った。

アリス

(拒否する)

うさぎ

なんだよ、もう。わかった、じゃあアリス、君の意見を聞いてやる。5秒だけ5秒だけだぞ。意見なんて聞いても、決定事項はかわらないけどな。さ、いいか？ヨイ、スタート。

アリス

(何かを言おうとするが、言葉を発さない)

うさぎ

はい、5秒過ぎた。……って、何だよ、何も言わないじゃないか。君はもつと骨のある奴だと思っていたのに、たいしたことないなあ。……あ、

そうか。こいつ（PC）に浸りすぎて、現実世界での喋り方を忘れてしまったんだな。笑つちまうよ。（PCの電源を入れてやる）これでどうだ。

アリス 何なのアンタ？マジキモイんですけど。というか、どっから入ったわけ？マジキチ？ってか、アリスって何？誰それ。

うさぎ いやー饒舌で素晴らしき汚言葉。この場合の、オコトバの才は汚いの汚ね。こうでなくちゃ。アリスはアリス。君さ。僕はうさぎ。さ、行くよ急

アリス アタシがアリス？何？どういうこと？

うさぎ アリスはアリス。僕がそういうんだから間違いない。

アリス そんな名前じゃないよ。

うさぎ じゃあ、なんて名前？教えて教えて。

アリス え・・・あ・・・

うさぎ ほら、どこのアカウント名使う？どこのId？え？え？え？僕がアリスと言ったら君はアリスだ。

アリス ・・・・行くってどこに行くんだよ。オメーみたいなマジキチについていくわけないだろ。

うさぎ もう五秒あげたんだ、君の意見は一つとて聞く気はない。トロトロされちゃ、困るんだよ。僕が怒られるんだよ。怒られたことってある？もう、それはそれは酷い心理的打撃をズゴーンと喰らわせられるんだよ。この前だって、ハート軍団のハートを黒く塗りつぶして、こうリンゴの芯みたいなを書いて、スピードが増えた！って言ったら、ズゴーンってやられて。いや、今はそんなことはいい。とにかく、もう怒られてズゴーンっていうのは、こりこりなんだよ。わかる？だから、急いで急いで。はい、1・2・3・4・1・2・3・4・・・（その場でかけ足をします）

アリス （座ったままに勝手に足が動きだす）なにになに？なんなのこれ。

うさぎ さあ立つて。 1・2・3・4・1・2・3・4

アリス (体がひとりで立ち同じくその場でかけ足) え?え?

うさぎ しゅっぱーっ

うさぎを先頭に走り出す

アリス なによー。勝手に走ってるー。キヤー。キヤー。キヤー。キヤー。

うさぎ (両耳押えて) うるさーい。もう、嫌なんだよ。だから嫌って言ったんだよ。こうなるのは目に見えてんだから。もう。

アリス いやー、どこに連れていくってんだよー。

うさぎ そんなに大きい声じゃなくても聞こえてるよ!女王様のところだよ。女王様のところに行くんだ今から。

アリス 女王様?女王様!?!じよおーさま?いやー、へんたーい!

うさぎ 人聞きが悪い。その女王様じゃない!僕らの大切な女王様がアリスを連れてくるようにって命令されたんだ。なんてったって女王様だ。命令は絶対。お会いしても失礼のないように。だから今のうちに沢山悪態をついておくんだね。言われる僕はたまったもんじゃないけどね。(時計を見て)おーっと、いけないいけない。そうこうしてるうちにチクタク時間が迫ってる。(時計を殴りながら)もうお前ったら、なんでそんなに規則正しいんだ!たまにはルーズになれよ!さ、アリス。悪態ついてもいいって言ったけど、これからは口を開いたら舌を噛みちぎっちゃうぞ。

アリス え?

うさぎ 急げ急げ!猛チャージ、超特急、ハイスピード、野を超え山越え川越えて、右見て左見て前見てゴー!

二人足の回転速度が速くなる

アリス

いやーーーーー。

二人猛スピードで走り抜ける

2

不思議の国入口

ハートの門衛が二人

うさぎ

(走りこんでくる) ストローツプ。

アリス

うわーっ (勢い余ってぶつかる) いってえー

うさぎ

そして、すかさず隠れる (と言って樹の真似をする)

アリス

は？なにそれ。それで隠れてる・・・

うさぎ

しっ！静に。とにかく草にでもなってる

アリス

(しびしび草の真似) こんなことで隠れるっていうの？

うさぎ

奴らより僕の方が頭がいいんだ。わかりっこない。ああ、しかしなんてこったい、だから急げって言ったんだよ。ハートに交代してしまっただよ。奴らには恨みをもってらるから絶対に意地悪しやがるはずだ。・・・臨戦態勢整えなくては (鞆から飲み物を取り出し飲む)

アリス

ちよつとアンタ。アタシにもよこしなさいよ。無理やり走らされて、喉がカラカラなんだから

ハートの門衛、違和感を感じてあたりを見回す

うさぎ

(門衛の様子を窺いながら) 何言ってるんだ。自分の力で走ってなくせに。

アリス

走ったのに変わりないじゃない

うさぎ ずっと部屋から出てなかったんだ。ちょうどいい運動になっただろ。

アリス 良いからよこせよ。

うさぎ 駄目だ、君は喉が渴いたと思ひ込んでるんだ。そうだ、そうに違ひない。もしくは喉が渴いただなんて、嘘ばかり言つて、こいつを奪つたら全部捨ててしまふ氣でいるんだろ。なんて卑劣なアリス。

門衛、あちらこちらを歩き見回る

アリス 何を馬鹿なこと言つてんの。早くよこしなさいよ。(奪おうとする)

うさぎ 駄目だ。これは僕のだ。

アリス 健気な女子が、お願いしてんだから早くよこせ。

うさぎ 何が女子だ。何が健気だ。これは僕ので、ずっと僕のだ。そう僕が言うんだ。誰にも渡さない。

アリス 馬鹿じゃないの。意味分かんねー。(奪う)

うさぎ あーーー

アリスが飲もうとする瞬間、門衛に二人見つかる

ハートA 何やつてる！

ハートB (少し遅れて) 何やつてる！

うさぎ ばれた……

ハートA お前は！ああ、うさぎじゃないか。

ハートB うさぎじゃないかあ。

うさぎ やあ。

ハートB

やあ。

ハートA

(ハートBに) おいつ！

ハートB

え？あ、あ、こ、こら、うさぎ。「やあ」とはなんだ。

うさぎ

「やあ、ごきげんよう。良い天気だね。」の「やあ。」だよ。(アリスに) さあさあお客様、それでは参りましょうか。門衛の諸君、あとよろしく頼みますよ。怪しいものは、ブロックブロック！それでは失礼。(白々しく通り過ぎようとする)

門衛、先回りして通せんぼ

うさぎ

諸君、素早い動き！素晴らしい！これで、この国は安泰だ！うんうん。では失礼。(前へ進もうとする)

門衛、再び通せんぼ

うさぎ

うんうん。よくわかった。君たちは優秀だ。それでは失礼・・・

門衛、強固に通せんぼ

うさぎ

何だよ！何だってんだよ！

ハートA

通すわけにはいかない

ハートB

いかない。

ハートA

怪しいものは(アリスを指す)

ハートB

ブロックブロック！(アリスを指す)

ハートA

さつきそう言ったよな。(うさぎを指す)

ハートB

言ったよな。(うさぎを指す)

うさぎ

はあ？言ったよ。言った言った。言ったけど、それは違うでしょ、この場合。

アリス

ねえ、なんなの？さつきから。

うさぎ

アリスが怪しいから、ここを通さないって。

ハートA

お前もだ

ハートB

お前もだ。

うさぎ

えー？

アリス

そう。アタシたち怪しいから、ここを通れないんだ。だよねー、だよねー、アタシ怪しいったらありやしないよね。ずーっと、そうじゃないかなーって思ってたの。アタシって生まれつき怪しいよなって。(うさぎに)ということ、アタシ落ちるね。乙乙(立ち去ろうとする)

うさぎ

(引き留め)ちよちよちよちよちよっ！どこ行くってーの。

アリス

ウチに決まってんじゃない

うさぎ

(門衛に) 僕が怪しいって、、どういうことだよ。

門衛二人、自身の胸をドンドンと叩く

うさぎ

何だよそれ。(アリスに) さて問題です。ここがどこで、どうやって来たか、そしてどう帰るか答えなさい

アリス

そんなの簡単だよ。(スマホ取り出し) GPSで現在地確認、ルート検索でチョチョイのチョイ！

うさぎ

(門衛に先程の動作を真似し示し) どういう意味だよコレ

ハートA

自分の胸に聞きな

ハートB

聞きな

うさぎ

お前たちがクイズ出すな！（アリスに）で？

アリス

おかしいな。全くレスポンスがない。ちゅーか、電波ない！

うさぎ

わかった？答えは、自分ひとりでは帰れない。僕がいなけりや帰れない。しかし僕は、君を女王様のところに入れて行かなくてはならない。つまりは、文句を言わずついて来いってこと

アリス

え？嘘！嫌だ！

うさぎ

（門衛に）で、答えは？

ハートA

俺たちはハートだ

ハートB

スピードじゃない

アリス

ねえアンタ、アタシどのみちココを通してもらえないんだったら、どうしようもないじゃん！帰してよ、ねえウチに帰して！

うさぎ

（時計を見て苛立ちながら）そーか、そーかー。そのことかー。そーだとは思ってたけど、そうだったのかー。早々に笑い話として思い出話として、双方そういうことになると思ってたけど、そういうわけにはいかないってことだよねー。上等な嫌がらせだ。賢いねー賢い。でもでもね、いいかい、これは女王様からの命令なんだ。時間制限付きなんだ。わかるだろ？女王様が怒ったらどれだけ恐ろしいか。

ハートA

俺たちにやった悪戯のせいで、そうなったんだろ？知ったこっちゃないね。

ハートB

知ったこっちゃないね。

アリス

諦めろ！怒られる！アタシを帰せ！

うさぎ

むー。かくなるうえは……。その場でかけ足 1・2・3・4・

1・2・3・4・・・

アリス え？まさか？

うさぎ 1・2・3・4・1・2・3・4・・・

アリス (その場かけ足) 嫌だー。また勝手に足が動いてるー

うさぎ 猛チャージ、超特急、ハイスピード、猛チャージ、超特急、ハイスピード
(門衛に) ピザって十回言ってみ。

ハートA は？

ハートB ピザピザピザピザ・・・ピザっ！

うさぎ (頭のとっぺんをクルクル回し) じゃあここは？

ハートA (すかさず) 膝！

うさぎ ぶー

ハートB (Aに) ピザだよ！

アリス え？馬鹿？

うさぎ (クルクル回した指を二人の前で回し) あっちーむいてーあっちーむいて
ーー

門衛、指に合わせて首を回す

うさぎ (両手でそれぞれ違う方向を指し) あー、侵入者発見！

ハートAB (それぞれ違う方向に向かう) なんだって？

道が開ける

アリス え？うそでしょ？

うさぎ さあ行くぞアリス、ゴーゴーゴー（走り出す）

アリス やだー、勝手に動くなアタシの足ー（ついて走る）

門衛を置き去り、走りぬける二人

アリス もーちよつと待って、なんなのよ、いったい

うさぎ もーなんなんだよ。待ってらんないよ。うるさいなー

アリス なんで、アタシがこんな目に合わなくちゃいけないの？なんでアタシ走ってんの？なに？なんなの？アタシなんかした？

うさぎ うるさい、うるさい、うるさい。

アリス なんで、なんで、なんで？

うさぎ さっきも言ったろ？女王様が君を呼んでいるんだ。だから僕が連れて行っているんだって。

アリス 女王様って誰よー。

うさぎ 僕らの女王様だよ。さっきも言ったろ？

アリス なんでついて行かないきやなんないのよ。なんで勝手に足が走って、あんたについて行ってんのよ！

うさぎ さあね。自分の足に聞きなよ。ついて行くと思ってるから、ついて来てんだろ。

アリス ついていくと思ってるから・・・

うさぎ 君は大体喋りすぎなんだ。

アリス

じゃあ、ついていかないとと思ったら・・・

うさぎ

そんな横柄な態度でベラベラベラ女王様の前で喋ってみろ、今にギョッとされて、グワアアってなって、ズゴーンなんだからな。自重した方が身のためだ。

アリス

ついていけない、ついていけない・・・（一人違う方向に向かっていく）
わっ！やった！バイバーイ。

うさぎ

（気づいていない）その前に、とにかくその口を閉じたらどうだい。これ以上喋ると、ほんとに舌噛み切るぞ。僕が言うんだから、間違いない。もしかしたら、君みたいなワーワー喚くだけで中身が全くないワーワー喚き虫は、舌が飛んで行ってもワーワー喚くんだろうけどな。クククク。そんな姿少し見てみていきもするけど、それはそれで気持ちが悪いから、今は勘弁してくれよな。いや、どうだろ。舌が勝手に動いて喋りだすのかもしれないな。君はどうなると思うアリス？ん？静かになったってことは、僕のホラーな説得が功を奏したってことか？え？（後ろを振り返る）あれ？アリス？アリスどこに行った？しまった！しまった！しまった！僕としたことが！滅多と後ろを振り返らない性格が、功を奏したの反対になってしまった！えーつとえつと、なんていうんだこういうこと。功を奏するの反対の言葉・・・えつと、えーつと・・・いやいや、そんなことは今はどうだっていい。どうしよう、どうしよう。このままじゃ女王様に怒られてしまう！ズゴーンどころの騒ぎじゃないぞこれは。探さなきゃ、探さなきゃ！アリス！アリスー（探しに向かう）

3

広く拓けた草原

アリス一人歩く

アリス

どこよここ。「歩く歩く」って考えたら歩けるんじゃないかと思ったら、歩けたのはいいけど、結局帰れねーし。なんなんだよ。わけわかんない。どこなんだよここ！あー腹立つ！あのうさぎ野郎、何してくれてんだって感

じ。てか、なんでうさぎが喋ってるわけ？うわっ！スッゲー今気づいた。うさぎと喋ったwwwありえねー。笑えねー。帰りてー。帰ってニコ生観てー。あ、そうだ！スマホ！ここだったら電波が（取り出す）・・・ない。というか電池がない。もー！うさぎっ！うさぎっ！うさぎっ！うさぎっ！どこだよ出て来い！アタシを家に帰せ！

突如、派手な音楽

アリス

なに？

どこからともなく、手綱に繋がれた馬二人と、その手綱を握る派手な身なりの男が現れる
馬の一人は大きなカセットデッキを担いでいる。そのカセットデッキから音楽は流れている模様

アリス

なんじゃありや・・・

派手男

ドードードー

馬止まる

カセットデッキの停止ボタンを押して音楽やむ

派手男

こんにちは。なんだか騒がしいと思ったら、かわいい女の子ちゃんじゃないの。こんなところで珍しい。何をしてらっしゃるの？

アリス

誰だよ、おっさん。

派手男

おっ・・・さん？

馬1

（首を振りながら）ブルブルブル

馬2

言っていないすよ。言っていない。

アリス

は？言ったじゃん、おっさんって。おっさんでしょ？どう見ても。だから、誰？おっさん。

派手男
(呼吸が荒くなる)

アリス
は？なんなの？

馬1
ダメ絶対！

馬2
人を見た目で決めつけたらブルブルブル

アリス
おっさんじゃん。(指さす)

派手男
おっさんって言ったー(後ろに倒れる)

すかさず二人の馬が支える

馬2
ヒエー、お気を確かに！

馬1
大丈夫です。大丈夫です。今日も麗しゅうございます。お美しくあられますうー。

派手男
(起きあがりながら) そう？そうよね？ありがとう。

アリス
なにこれ。オモシロww

馬1
生まれたときから女性でられます。

馬2
そうでございます。我々がそういうのだから、間違いございません。

派手男
ええ、あなたたちがそう言うし、私もそう思っているのだから、間違いないわよね。

アリス
何言ってるの、おっさん(指をさす)

派手男
イイイイイー(後ろに倒れる)

再び馬が支える

アリス w w w オモシロ

馬 1 おやめください！

馬 2 こう見えて重たいのです。

馬 1 (派手男に耳打ち)

派手男 (起き上がり) なに？この子が？

馬 1 おそらく

派手男 ありやまー、ソーダか石鹸粉。なんたる偶然。偶然なのかしらコレ？必然
よね？私ったら、ヒキが強いー。よかったわ。よかった。今日のお洋服フ
リルのこれを選んでおいて。

アリス は？

派手男 アリスー。あなたが噂のアリスなのね？会いたかったわ。

アリス アタシはアリスなんかじゃないって！

派手男 え？アナタ、アリスじゃない？ホント？それホント？アリスじゃないの？
(馬に) アリスじゃないっていつてるわよ。じゃあ、誰アナタ。

馬 1 そんなはずはありません。

アリス アリスじゃねーって。

馬 1 じゃあ、あなたはどなたでしょう？

アリス (口ごもる)

馬 1 お忘れだ。

馬 2 ネットワークのアカウント上、あなたは「アリスじゃねー」となってます

が、IDにおいては「アリス」と記載されています。

アリス
は？どうということ？

馬1
あなたは他国の方と存じますが、どのようにしてこの国に入られたのか、お教え願えませんでしょうか。

アリス
それはその・・・そう、うさぎ！喋るうさぎが勝手にアタシの足を動かして、勝手にしてこさせられたんだよ。そんなもって、アタシのことをアリスって呼んで。

馬2
ということは、門衛がいるこの国において、うさぎとともに「アリス」として入国されたと。それでいいですね？

アリス
そう。そうだよ。でも、アタシが「そうしなくて」じゃなくて、勝手にそうなっただけで、ホント「アリス」なんて名前じゃないし。

馬1・2
ということのようです。

派手男
へ？・・・あ、そう。じゃあ、お茶会にしましょ。一緒に来なさい。

アリス
なんで、そういう展開？

派手男
いいえ、パーティーよ。パーティー。お茶会も「パーティーパーティー」と言うけれど、もつと派手なパーティーよ。(アリスに) ねえ、それでいいでしょ？

アリス
だから、どうして？アタシはウチに帰りたいの！

アリスの腹の虫が大音響で鳴る

派手男
あらま、正直なカラダ♪

アリス
そう言えば、何も食べてない・・・

派手男
そうなの？それは意志とは無関係かしら？無関係よね。鳴らそうと思って

鳴るものじゃないものね。アリスと呼ばれることも、意志とは無関係でしょ？ゴロウザエモンだろうがタメコだろうが、生まれ出たその時に決定づけられるもんであつて、それは自分の意思でどうこうできる問題ではないはずよね。

アリス
わからない。

馬1
「アリス」と呼ばれるから、「アリス」なのです。

馬2
お腹が空いたから、パーティーに参加するのです。

派手男
そう、目一杯派手なパーティーにね。さあ、宴の準備はもうできているわ。好きな食べ物はある？嫌いな食べ物は？何でも言つて。素晴らしい食事、超一流の食事で沢山もてなすわ。楽しくなりそうよ。

アリス、反論のしようがない理屈と強引な態度に圧倒されながらも、甘美な言葉に涎を垂らし、惹かれていく

派手男
これを持って（片方の手綱を渡す）行くわよ！ハイドーハイドー

馬1
スイッチオン。

大音響の音楽が鳴り、二頭立ての空想馬車がアリスを連れて去つて行く

4

とある屋敷の一室

執事の姿に替えた馬を従え、派手男（女王）とアリスがテーブルを囲んでいる

女王はテーブルに置かれている料理を次から次へと散らかすように食いついている

執事は忙しくテーブルと厨房を行ったり来たり

アリスはその様子を呆然と見ている

アリスにはテーブルの料理など見えていない

女王
はふふ、ふがふがふふん、じゅじゅじゅるる、はぐはぐはぐ、ふふあつ
ふふあ（↑意地汚く食べる擬音。表現は字のごとくでなくてよい）

アリス
あの一。あのさ一。

女王
ガシユガシユ、グチャラグチャラ・・・（↑依然として食べる擬音）

アリス
ねえつたら！

執事
（料理をせつせと運び出入りしながら）どうなさったんですか？一つも口
をつけずに。こちらは、今日あなたに出会えた喜びで、いつにも増して召
し上がってらっしゃるといふのに。

アリス
は？どういうこと？料理？そんなもん・・・。

女王
ふあー、食った食った。ふいー。ふうー。ふえー。ふおー。ほほほほ。
あれ？どうしたの？まだ手をつけてないじゃないの。具合が悪いのかし
ら？

アリス
なんか、ある意味具合悪い。

女王
（執事に）今日はどのくらいいった？

執事
実に538人前でございます。

女王
（お腹をさすって）満足。

執事
ワタクシ、運び甲斐がありました。厨房もフル稼働で「作り甲斐がある」
と言っておりましたし、料理長は途中で動けなくなって、そのまま医務室
へ運ばれて行きました。

女王
そう。それじゃ新しい料理長を選任しないといけないわね。それはそれで、
料理が目新しくなって楽しみだわ。

執事　それもそうですね。

女王　それもこれも、アリス、あなたのおかげよ。

執事　そうですね。ははははは。

アリス　・・・全く意味がわからないんですけど。

女王　そうね。そうでしょうね。なにもかも、いきなりですものね。

執事　いきなりこのような豪華で秀逸な、それでいてウイットに富んだ美しい調度品に囲まれたダイニングで、これまた豪華で繊細な風味や食感に包まれる料理の数々を目の前になると、誰であつても最初は訳がわからなくなるものです。ワタクシも、初めてここにお勤めさせていただいた時には・・・

女王　シャララップ！

激しい雷鳴が轟く

執事　ヒエッ！申し訳ありません。

女王　シャツト・イット・アップ。執事が多くを話すではありません。

アリス　え？ヒツジ？さつきまで馬だったのに、ヒツジ？

執事　ヒツジではありません。馬でもありません。ワタクシはヒツジです。そもそも、どうして執事とヒツジを間違えるんですか？

アリス　だって、今ヒツジって。

執事　よく見てください。ヒツジの成りをしておりますか？ヒツジは料理を運びません。執事は料理を運びます。運ばれるなかにヒツジの料理は入ってるかもしれません。しかし、それではワタクシはワタクシ自身を運ぶことになります。馬であつたのもさつきまで。今は馬であるはずがありません。そういうことになっているのです。使え従うという意味では、馬も執事に違いはありませんが、今はヒツジなのです・・・あ。

アリス 今、自分のことヒツジって言った。

執事 言っではおりません。いえ、正確には言ったかもしれませんが、ヒツジではなく執事です。ワタクシがそう言うのだから、間違いはありませんし、少なくとも……

女王 シャラー……ーッブ！

雷鳴がとどろく

執事 メ……ー

女王 私はアリスと食後の会話を楽しみたいのです。アナタがしゃしゃり出て、ペチャクチャ喋る時ではない！出て行きなさい。さもないと……(ナイフとフォークを持って舌舐めずりするマイム)

執事 メ……ー (足早に出ていく)

女王 やつと静かになったわ。さてアリス。お茶でもしながらお話しましょうね。

アリス お茶？お茶なんてどこにあんのさ。ねえ、さっきからおかしいんじゃない？豪華な調度品だとか豪華な食事だとか500人前食べたとか。

女王 538人前。

アリス だから、その538人前って何。どう食べたの？どんだけの量だって。そもそも、どこにそんなのあるんだって話だよ。なんもないじゃん。

女王 やっぱり、あなたって面白いわね。面白い。呼んだ甲斐があるわ。

アリス 面白い？

女王 あなたはここには何もないと、そう言いたいわけよね。

アリス
だからさつきから言ってるじゃん、何も無いって。これ全世界全人類共通の認識だと思うんですけど。

女王
あらまあ、ソーダか石鹸粉。知らなかったー。じゃあ、私は「何も無い」ところに「何も無い」調度品を飾って、「何も無い」を見てウツトリして、「何も無い」食事を料理人に作らせて、「何も無い」を食べていたのね。ああ、やっぱりアナタをここに連れて来て正解。

アリス
何言ってるの？というか、なにもの？アンタ。

そこにうさぎが飛んで入ってくる

うさぎ
せかせかせかせか、飛んで出てー、ころり転げた木の根っこってなもんだい。おつかさん、おとつちゃん、お坊ちゃん、お嬢ちゃん。おとつとつと。(女王を見止めて) わーわーわーわー、こりやまたこれまた、いらっさいましたかスタンバってましたか。お待ちしました、いや、お待たせいたしました。えー。えー。僕は、私は、うさぎでございますが、なんと言いますようか、二人のはずが何故か一人という奇妙な展開で、のこのこと現れた次第でございます。

アリス
うわ、うさぎだよー。

うさぎ
(アリスの方を見て) そうだよ、うさぎだよ。文句あつか？(女王の方に向きなおして) 頑張ったんですよ。一生分ぐらい頑張ったんですよ。もしかしたら、一生分ぐらい頑張ったかもしれません。けど、けどなんですよ。持て余すというのか、なんとも群を抜いて素行が悪いというか何というか……。要するに逃げられてしまったようで。(土下座をして) ホントに申し訳ありません。この通りなので、どうか怒ってズゴーンとかバギーンとかしないでくださいね、女王様。

アリス
女王様？え？女王様？これが？

うさぎ
これがって何だい君は！女王様は女王さ・アリス！アリスじゃないか！
どうしてここに？

アリス
さー、よくわかないうちに、よくわかんないところに連れてこられた。

うさぎ

あれあれあれあれ、まあまあまあ、棚から牡丹餅。前言撤回。女王様、この娘がアリスです。アリス。僕が連れてきました。途中まで。

女王

ご苦労さま。

アリス

てゆうかさあ、まじでこのおっさんが女王様？おっさんだよ、おっさん。おっさんで、その服で、女王って・・・やっぱ変態じゃーんwww

うさぎ

わーきゃーわーきゃー。何何何を言ってるんだい君は！（女王に）ほんつとに素行と口の悪い娘で。女王様はいつものように美しく美しい。間違いない！大丈夫ですよ？大丈夫ですよ？ドガンバキーンはないですよ？

女王

（若干引き攣りながら）ええ、大丈夫。対処法は心得たわ。都合よく、頭の中で「ピー」って変換しているから。

うさぎ

さすが女王様。良かった。

アリス

おかしいよ。やっぱり、おかしい。

うさぎ

何がだよ。

アリス

アンタがうさぎの分際で喋ってるのもおかしいけど。

うさぎ

喋ってるんだからおかしくない。

アリス

どうみてもおっさんなのに女王とかいってみたり。

うさぎ

女王様だ！

アリス

テーブルに何も無いのに豪華な食事を538人前食べたとか言ってみたり。

うさぎ

（女王に）素晴らしい！拍手！

アリス (あちこちで腕をブンブン振り回して) 調度品なんて何もないじゃん。

うさぎ 危ない危ない。

アリス トランプも馬もヒツジも

執事 (遠くから) 執事！

アリス おかしなもんばつかじゃん。どう説明できる？

うさぎ いいかいアリス。それはね・・・

女王 (高笑い) ね、ほんとに面白い娘でしょ？

うさぎ ええ？ええ。そう・・・ですね。ほっほっほっほっほっ。

女王 ねえ、アリス。少しテストしてみましよう。

アリス テスト？嫌だ、テストって世界で一番嫌い。断固拒否。

女王 まあ、そう言わずに付き合ってちょうだいな。面白くなるんだから。場合によっては、早めに帰してあげてもいいわよ。

アリス 早めにとって・・・。それでも拒否したら？

大きな雷鳴が一発鳴る

女王 ローストアリスなんて美味しそうかもね。

アリス ……

女王 (奥に) あれを持って来て頂戴

執事が大きな布を持ってくる
それをアリスたちの前に持って広げる

アリス あ、今度はちゃんと持ってきた。

女王 良かった。あなたにも見えるようね。さあ、アリス。この布は何色か教えてちょうだい。

アリス 赤だけど。

女王 赤？本当に赤い布？

アリス 赤じゃん。どう見たって赤じゃん。

女王 ファイナルアンサー？

アリス ……ファイナルアンサー。って古っ。

女王 あなたには赤に見えるのね？うさぎ、あなたどう思う？

うさぎ えーつとえつとえつと……。女王様、これはどう答えたらいいんでしょうか？

女王 素直に答えたらいいのよ。素直に。

うさぎ そうですか。素直に……。では、率直に申しまして、赤かと問われたら、赤ではありません。

アリス は？

女王 素直に！

うさぎ ヒッ！ああ、あー、あー、あのー、赤色はそんな色ではありません。赤じゃないです。黄色です黄色。

アリス 何言ってるの？これが黄色？頭おかしいんじゃない？

うさぎ おかしくなんかないやい！黄色ったら黄色なんだ！

女王 そうかい、黄色ね。面白いわね。

アリス 何なの？どういうこと？じゃあ、おっさんは何色だって言うのさ。

女王 お、お、お、おっさん！（気を失いかけるが、すぐに頭を振り撮り戻す）・・・気を緩めていたわ。危ない危ない。

アリス もう飽きた、それ。

女王 （少しムツとする）

アリス そんで？

女王 （執事に）お願い。

執事は持っている布を裏返して見せる
裏は全く違う色。しかし黄色でもない

女王 どうかしら？

アリス あー、そんなのインチキだ！赤のところをアタシに見せて、自分たちは違う色の裏を見てるだなんて。あれ、でも黄色じゃないじゃん。（うさぎに）アンタ黄色って言ったよね。

うさぎ ああ、言ったさ。黄色じゃないか。

アリス は？どういう目をしてんのさ。これのどこが黄色なわけ？

うさぎ 黄色は黄色さ。僕は幼いころから、これを黄色って教えられて育ったんだ。黄色でしかないよ。

アリス うわー、可愛いそうな奴発見！嘘教えられてんだー。うわー。

うさぎ 何を失敬な！嘘を教えられた？じゃあ、なにかい？僕を、僕のお母さんやお父さんやお爺さんお婆さん達が、騙してたっていうのか？君はホントにホントに嫌な奴だと思ってたけど、ホントにホントにホントにホントに嫌

な奴だな！

アリス　なに？！

二人にらみ合う

女王　うさぎ。やめなさい。そんなことを未だに言っているなんて、私の国の住

人として恥ずかしい。だから、半人前未熟者の扱いをされるのです。

うさぎ　だって女王様。アリスは僕の家族を！

低く遠雷の音

女王　静かになさい。今はアリスをテストしているのです。

うさぎ　（震えながら）申し訳ありません・・・。

女王　そう、アリス。いま一つはつきりしたことがあったわね。

アリス　うさぎが馬鹿だったこと？

うさぎ　なんだって！

遠雷の音とともに、うさぎ引っ込む

女王　そうではありません。裏と表の色が違うということは抜きにして、うさぎはこの色を黄色と教えられて育ってきました。だから、黄色なんだと。反対にあなたは、こちらの色を赤と教えられて育ってきた。違う？

アリス　そう・・・だけど。

女王　そうよね。どうかしら？これは一種の思い込みじゃないかしら？

アリス　思い込み？

女王　そう、思い込み。アナタが走らされている時、「走らされている」という

思い込みのおかげで勝手に走って、うさぎとここに来た。でも途中で、その思い込みを「歩く」と思うことによって止めて、歩けるようになった。違う？

アリス

そう。

女王

それと、あなたは今自分が目に行っていることは、みんな同じくして見ていると思っ込んでいる。違う？

アリス

いや、それはそうじゃないの？

女王

さつきも言った通り、うさぎはアナタと同じものを見たのに、違う色を言っただわ。

アリス

だから、それは思い込みじゃ・・・

女王

ええ、思い込みよ。違う色として認識して、違う色として見ている。それは、アナタと彼と同じものと同じように見ていると言えるかしら？例えば、手を三角の形にしてみてもいいわ。

アリス、してみる

女王

ええ、それがあなたにとって三角なの。でも、他の人にしたら、それは三角ではないかもしれない。丸というかもしれない。もしくは、アナタにとって三角の形に見えているそれは、他の人にとっての四角をかたどっているのかつ、丸と呼んでいるかもしれない。

アリス

なにになに？全然わかんない。(うさぎに) アナタわかる？

うさぎ

(首を捻る)

女王

徐々にわかってくるわ。ではもう一つ。今話したことが現実だとしたら、他の人と話をする時、すれ違いが起こってしまうよね。

アリス

え？・・・う、うん・・・

女王
アナタが三角の赤い何かを取って言った時、相手はアナタにとって色も形も違うものを持つてくるかもしれない。

アリス
あ、ああ、うん。

女王
でも、それは滅多に起こらない。なぜか。こう考えられるわ。アナタが三角の赤いと言った時、相手には全く違う音に聞こえているんじゃないかって。例えば黄色い丸ってね。でも、その相手にとって黄色い丸はアナタにとって、三角の赤なのかもしれない。わかる？

アリス
何となく……。

うさぎ
要するに、自分の音や形や色なんかの認識は、他人にとって違う認識であっても、それぞれが共通の思い込みがあるから、なんとなく上手くいつてるってことですか？

女王
あら、少しは賢いことを言うじゃないの。

うさぎ
でへ

女王
そう、それに共通の事実があるということも大切。

アリス
共通の事実？

女王
そう。アナタがさつきして見せたように、手で形を作るという事実。それがなくちゃ、アナタがどういう形を三角と思いついてるのか示せない。

アリス
はあ……またわかんなくなってきた。

女王
あなた達、入ってきなさい。

ハートの門衛と執事が入ってくる

女王
(門衛に) アナタ、ハートよね？

ハート
ええ、ハートにございます。

女王 そう、ハートとしてここに存在しているという事実。(執事に)アナタは？

執事 時によって馬ではありませんが、執事でございます。ヒツジではありません。

女王 そうね、ヒツジとしては存在はしていないけど、馬や執事として仕事をし、存在しているという事実はあるわね。

執事 ありがとうございます。

女王 アリス。アリスは、自分のことアリスじゃないと言うけれど、ここにきてずっとアリスと呼ばれ、認識されて、今ここではアリスとして存在しているわね。それは誰もが認めていて、共通の認識。つまり事実。アナタは認めないけど。でも、存在している。

アリス まあ。

女王 さて、これとはどう違うかしら？さつき、あなたには見えてはいなかったけれど、私は沢山の食事をしてお腹がいっぱいになったという事実。そして、ここに沢山の調度品がおかれ、それを私が愛でているという事実。

アリス それは違うよ。何もないんだもん。

女王 そうかしら？事実があるのに存在していないというのは、不思議な話よね。じゃあ、アナタは存在していないということにならないかしら？

アリス ならないよ。だって、いるじゃん。ここに。

女王 それが思い込みだったとしたら？

アリス え？

女王 存在していると、思い込んでるだけだったとしたら？

うさぎ 女王様、それが通るんなら僕らの存在も危ういのでは？僕らも、僕ら自身を存在していると思いついてるかもしれない。ということになるんじゃない

ないでしょうか？

女王
そうね、まったくその通りだわ。私たち自身も、私たちがここにいるという思い込みの元に存在しているのかもしれないわね。もしくは、アリスが私たちのことを存在していると思いついているから、ここに居れるのかもしれない。

アリス
どうということ？本当はあんたたちいないの？

女王
アリス、あなたは どう思う？いると思う？いないと思う？

アリス
いるでしょ。どう考えたつていると思う。こんなおっさん、他にどこにいるつていうのさ。

女王
ゴホン。・・・じゃあ、いるんじゃない？他の誰かが、あなたのことをいえないと思いついていたとしても、あなたが他の人のことをいると思えば、ちゃんとそこに存在するし、あなた自身も存在するという証明になるでしょうね。

アリス
え？

女王
さあ、あなたが思う調度品をここに飾りなさい。あなたが思う豪華な食事もここに並べなさい。自らを信じなさい。自分を頼りなさい。自分に都合が悪いことは、都合の良いように思いこめばいいのです。悲しかったことも喜びに変わるでしょう。

アリス
・・・。

女王
さあ、やってみなさい。自分を変えるのは自分しかいないのです。さあ。

アリス、戸惑いながらも目を瞑り思ってみる。
深く深く思ってみる。

色鮮やかで、美しい装飾を施された調度品の数々を。

映画や漫画でしか見たことがないような豪華な食事の数々を

ゆっくりと目を開けるアリス。

すると、今思い描いたものが、すべて目の前に広がり、美しい

光線が飛び交い、先程までいた同じ部屋とは思えない様子になっている

そして女王たちの姿はなくなっている

アリス
なにこれ？さつきまでと全然違う。すごい！あれ、おつき・・・じゃない、女王様？うさぎ？ねえ、どこ行ったの？見えたよ。アタシにも見えた！ねえ、どこななの？見えたってばさ。おーい。

女王（声）
そう。よかつたわね。私たちは、役目を終えました。アナタにとって必要じゃなくなったのよ。

アリス
ちよっ！ちよつと待ってよ。どういうこと？こんなところにアタシ一人置いていく気？

女王（声）
そうね、私たちのことをいると思っているのに、存在しないのはおかしいことよね？

アリス
え？そんなこと言ってないですけど。

女王
それはね、私たち自身がアナタにとって必要じゃないから、存在しているということをやめたからよ。

アリス
だから、会話が成り立ってないって！

女王（声）
ちなみに、この声は録音よ。だって、存在しないんですもの。ウッフ。

アリス
ウッフじゃねーし！ね、ね、アタシどうしたらいいのさ！どうやって家に帰るのさ！

女王（声）
さ、アリス。思う存分この世界で楽しんでちょうだい。何もかも、あなたの思う通りよ。ウッフッフ。

アリス
あー、おっさんのくせに腹立つ！なんだよその笑い方！それに、こんなところに住たくないってーの

女王　もし、帰りたいというのなら……

アリス　そうそう、それを聞きたいの！

女王（声）　もし帰りたいというのなら、また思い込んだらいいのです。ここは本当は自分の部屋だと。簡単でしょ？

アリス　思い込む？思い込んだら帰れるの？じゃあ、最初からそうしといたら良かった！簡単すぎるよ！

女王（声）　じゃあね、ばいびー。

アリス　ばいびーって……。思い込む思い込む……。自分の部屋自分の部屋……
（と言いつつ、目を瞑り思う）

あたりが強い光に包まれ、一層明るく輝いていく

5

いつの間にか自分の部屋に戻っている
あたりは、先ほどとは違い騒がしい

男1　ワロタワロタ

女2　プギャー

女1　アリエナス！そんなことアリエナス！

男2　DDがJKとだなんて絶対ないわ。

アリス　戻ってる。

女1　それサポだよ！

男1 サポでも同意の上なら

アリス 夢だった？

女2 アゲー

男2 窓8の期待感ハンパねー

アリス うるさい

男1 蓋開けたらBBAだったりして？

女1 アプリインスコー

女2 wwwツイ廃ばつかじゃん

男2 裏垢と表垢間違えた！

アリス うるさい

周りのノイズが消える
懐から家族写真を取り出す
そっと胸に抱き、目を瞑る
そして何かをつぶやく
目を開け、写真を見つめる

男1 おかえり

女2 おかえり

アリス ただいま、お父さんお母さん

女1 おかえり

男2 おかえり

アリス ただいま、お兄ちゃんお姉ちゃん

男1 待ってたよ

女1 うん、待ってた

アリス ありがとう

男2 さびしかったぞ

女2 さびしかったわ

アリス ありがとう。ホントはみんな大好きだよ

男2 知ってるよ

アリス 外に出れそう。外に出る。

女1 そう。よかったわね。

男1 大丈夫か？

アリス 大丈夫。皆がいるから。やっとわかった。

女2 そう。皆がいるよ。そう思っていたらきっと。

アリス そう。そうだよね。きっと。皆がいると思えるから、私がここにいる。前に歩ける。これでいいんだよね、きっと。

完